受　講　生　の　活　躍

タイムス　2021年(令和3年)12月1日 水曜日　(16)

「密避けるアイデア素晴らしい」

ロボカップ国際大会

八木節ロボ3位相当

桐生の幼なじみ4人組

11月25～29日に愛知県常滑市で開かれたアジア・太平洋地域の学生らによる自律型ロボットの競技大会「ロボカップアジアパシフィック2021あいち」のジュニアオンステージ部門に出場した桐生市の小学生4人組が3位相当の賞を受賞した。

唯一の小学生チームで

出場したのは桐生市立天沼小6年の澤口悠喜さん（まさき）、同市立小6年の澤口琉芽さん（るめ）、同市立小6年の大澤晴士さん（はるし）、桐生市立小6年の野田一統さん（かずまさ）の幼なじみ4人組。

新型コロナウイルスの影響で来年1月に延期された桐生八木節まつりの再現を通じて子ども文化の継承を目的とした「八木節ロボット」を製作した。

ステージ上で八木節ロボと並んであいさつする4人（愛知県常滑市の展示場で）

ロボットは八木節まつりの太鼓をたたいたり踊ったり、太鼓をたたいたりする。同じくロボットの動きを再現した。

審査員の質問に、リーダーの澤口さんは（入力）二つの赤外線センサーを組み合わせた。太鼓ロボは八木節に合わせた加速度センサーに連動して動く」などと説明した。

審査員からは「人の前にロボットをえがいてのアイデアが素晴らしい」と高評価。高校生以下が対象の競技部門に出場した4チームで唯一の小学生チームのオール小学生チームながら、3位相当のベストヒューマンインタラクション賞」を受賞した。

指導さんは「準備練習はトラブル続きだったけど、大会本番はうまくいってよかった。あきらめないで頑張ることと、人とうまくコミュニケーションが大切だと感じた。次の大会に向けて頑張りたい」と話した。

同大会は大学生や高専生、一般対象のメジャーム、高校生以下のジュニアに分かれ、会場競技ではA1高専ロボのサッカーや救助ロボのレスキュー（ラ）など種目、国内外から選抜参加をきめて100チームのチームが出場した。

タイ 桐生タイムス　2021年(令和3年)11月25日 木曜日　(16)

八木節ロボで狙うは王座

桐生子ども頑張る

アジア・太平洋地域の学生らによる自律型ロボットの競技大会「ロボカップアジアパシフィック2021あいち」（25～28日、愛知県常滑市）のジュニアオンステージ部門に、桐生市の小学生4人が出場する。人と連動して踊ったり太鼓をたたいたりする"八木節ロボット"を製作し、大好きな桐生八木節まつりを再現する。あす26日の順部門開幕を控えた桐生っ子たちは「まずは準備したことをしっかりやりたい」と意気込んでいる。

きょうから「ロボカップアジアパシフィック2021あいち」

ロボカップに参加する澤口悠喜さん、澤口琉芽さん、大澤晴士さん（左から）

ステージ上で太鼓を演奏予定の野田一統

大学生の澤口姉弟の長姉や桐生市内のプログラミング教室の協力を得て、太鼓をたたく人の動きに連動して動かす

ロボカップで実演予定の八木節ロボ。左が太鼓ロボで手前が踊り子ロボ

飾り子ロボなどさまざまのロボを製作した。

大澤さんが「何度もエラーが出たりしてプログラミングが大変だった。大会本番はちゃんと動いてほしい」と祈るように話すと、リーダーの澤口悠喜さんも「頑張ってほしい」と話した。

ボを入れて（加速や踊りができたら、復活できるかもしれない）この思いで頑張ったから準備したいという。

大会は25日に開幕し、11月に入り、26日に決勝戦が行われる。

ランクなどもあり、この経験を後に生かせたらと目を輝かせた。

澤口姉弟と澤さんの3人は25日の前に、野田さんは26日の前にそれぞれ現地へと現地入り。26日に決勝戦。

特別賞予定で、同日にパフォーマンスをする。